

会議結果報告書

令和5年7月10日

会議の名称	令和5年度第1回舞鶴市第5期地域福祉計画策定懇話会(第4回)	
種別	<input type="checkbox"/> 附属機関 <input checked="" type="checkbox"/> 懇話会等	
開催日時	令和5年7月10日(月)14時00分～	
開催場所	舞鶴市役所 別館4階 411会議室	
出席者	川島委員、田中委員、熊取谷委員、加藤委員、山内委員、今安委員、佐藤委員、桑原委員、町田委員	
議題	●協議事項 (1) 舞鶴市第5期地域福祉計画(案)について (2) その他	
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開	
	<input type="checkbox"/> 部分公開	[理由]
傍聴者数	0名	
審議結果及び主な意見等	別添会議録のとおり	
会議録の作成様式	<input type="checkbox"/> 詳細 <input checked="" type="checkbox"/> 要約	
備考		

担当課	舞鶴市福祉部福祉企画課 TEL 0773-66-1011
-----	---------------------------------

第四回 舞鶴市第5期地域福祉計画策定懇話会

日時：令和5年7月10日(月) 午後13時55分～

場所：舞鶴市役所 別館4階 411会議室

委員：	福知山公立大教授	川島典子氏
	舞鶴自治連・区長連協議会 副会長	田中幸男氏
	京都府中丹東保健所 福祉課長	熊取谷晶氏
	舞鶴市民生児童委員連盟 副会長	加藤喜美子氏
	舞鶴市社会福祉協議会 地域福祉課長	山内亨氏
	地域生活支援センターみずなぎ センター長	今安えり子氏
	城北地域包括支援センター 管理者	佐藤葉子氏
	舞鶴学園 施設長	桑原位修氏
	NPO 法人ニュートラル支援員	町田弘樹氏
事務局：	舞鶴市福祉部 部長	岸本昭彦
	福祉企画課 課長	山本仁志 他3名

1. 開会

委員が集まったため、定刻よりも早めに開会。以後、山本課長により議事の進行。

2. 挨拶

岸本部長

3. 委員及び事務局紹介

委員、事務局が順番に自己紹介を行う。

4. 協議事項

以後、進行を川島委員に交代

(1)舞鶴市第5期地域福祉計画(案)について

(事務局より説明)

【主な意見】

会長 最も取り組まないといけないのが「重層的支援体制整備事業」と言っていただけでうれしい。現場の人からでた「全世代・全分野対応」の支援の財源がきちんと確保できたことで進んでいこう。「舞鶴モデル」ができれば良い。資料4がとても分かりやすい。裏面の例のような相談が地域に存在しており、それをみなさんの協力のもとにやっということ、それを地域福祉計画に盛り込んで取り組むということ。市民の方には「みんなで支援するよ」というのを盛り込んで、チラシにされているということ、そんな市町村はなか

なかないと思う。みなさんに協力いただいてこそその推進だと思しますので、今後とも市や社協に協力いただきたいと思います。いままでやっておられたことに財源がつくということなので、市や委員のみなさまと共働しながらやっていただくということで。

質問や意見があれば、皆様方からお伺いしたいのですが、いかがでしょうか。

児童虐待につながるケースもあるだろうし、民生委員からの協力、また独居高齢者の孤独死の問題、ソーシャルキャピタルという地域のつながりと介護予防の研究をしており、地域のつながりが豊かな地域は要介護状態の人が少ない、犯罪も少ない、学力も高い、合計特殊出生率も高いといういいことづくめである。子育て支援も含めて地域のつながりが必要。町内会・自治会のみなさんの力というの、重層には必要なことである。民生委員さんは地域に1人しかいないので、地域住民の力というのは大切であり、今日の委員さんみなさん大切な機関である。

介護予防は「結合型ソーシャルキャピタル」「橋渡し型ソーシャルキャピタル」両方がある。子育て支援において、舞鶴市は初めて「橋渡し型ソーシャルキャピタル」のアンケート集計の結果と関わりがあった。

自分は「高齢者保健福祉計画」「自殺予防対策計画」などいろいろな計画に関わっているが、舞鶴市では結合型ソーシャルキャピタルのつながりが強い。日本は国民性として「地域の人は信頼する」「地域外の人には信頼しない」という考えが根強い中、舞鶴は引揚げの歴史もあるのか、地域外の人と関係を作ることができる土地。ただ市内の東西の違い、中山間地・漁村部との違いなどもあると思う。地域ごとにきめ細かい重層的支援を行っていくことが重要であるし、地域性を考慮した支援をやっていくというのが大切。

部長：担当として重層のチラシに載っているような例は多く経験してきた。そんな中で、「重層が何を变えてくれるのか」という意見もあるのではないかと。高齢者だったら後見の問題、みずなぎだったら知的障害者の子育てに問題などがある。部長として生活保護受給者の中には「働けるのでは」と感じる人がある。なかなか課題としては分かっているけど解決していかない点というのがあるという現状がある。高齢者のサロンも地域の方は協力的に取り組んでくれている。計画としては理想的なことを書いたけど、本当にそこが解決していいのかというの不安はある。今後は包括化推進員の活動のなかで、うまくマッチングできたら良いなあと思うところがある。コミュニティだけでは解決できない問題は全国的な問題だと思うので、そこをどうしていくか。社協が、色々な機関をつないでくれるとは思いますが、サービスにうまくつないでいけるかどうか重要だと思う。

会長：地域福祉計画は概念的な計画。実際には社協が立てられる「地域福祉活動計画」の方が具体的な計画になる。概念的で理念で立案されていることは気にすることではない。PDCAサイクルの中で、Aの時にフィードバックして変えていけばよいし、そのための進捗状

況チェックだと思うので、そこまで肩肘張らずにやらずに取り組んでもらえたら良いと思う。「重層的支援体制整備事業はもう一定できている」という意見が聞けたことがすばらしいと思うし、それがこれまで取り組んできた結果だと思うし、地域の方の努力によるものだと思う。既存のもの、助け合いなどは崩さないままで、包括化推進員を活用していくということが重要。

人材不足については、舞鶴市役所には「デジタル推進課」という名称で、課で独立してやっているのは驚いている。中山間地域の研究をしていると、「前期高齢者」が足りないという状況にある。ふれあい生き生き教室ができていたが、それを進めていた前期高齢者が後期高齢者になってしまっていくという状況があり、サロンを運営する人が高齢化してつぶれていってしまうという声を聞いた。これからはA Iやロボットが代行したような運動教室をアバターがやってくれるということがあるので、そういった考えもある。

府の研究費1800万で独居高齢者の見守りロボットができないかと考えているし、また災害時の要援護者の高齢者や知的障害者や難聴者、母子（小さい子どもがいる家庭）が逃げ遅れやすいという状況に対して、逃げやすいルートを提示するなど、A IやICTを使って支援していくというのも福祉行政には重要だと思う。デジタル推進課にお任せにしないで、福祉部局とうまく連携してやってほしいと思う。

ケアマネジメントをA Iがやってくれる民間の業者もある（厚生労働白書）し、障害を持った方の心を癒すロボットというのものもあるため、人口が少ない地域ほどそれが必要になると思う。また必要があればお声かけいただきたい。

免許の返納の問題があり、買い物に行けないために「買いだめ」することになる、それにより缶詰やレトルトが多くなるということがある。スーパーから遠い場所に住んでいる高齢者ほど要介護状態になりやすいという研究もある。福知山市の大江町は中山間地域になるが、タクシーが家の前まで来てくれるサービスもあり、またNPOが実施しているところもあり、今年からは市も補助を出したりして実施している。

桑原委員：先ほど「関係ない」という言い方が独り歩きしてしまったが、子ども家庭分野から人がいなかったということで声をかけてもらったが、3回のうち2回しかこれなかったので、いかに自分が寄与できたかを不安に思った。

資料3の裏面の中間評価について、こども分野であれば舞鶴っ子の計画があったりして、そこは数字のある計画があるが、それに基づいた実際の現場の聞き取りがあると思っていたらよいか。

課長：地域福祉計画の定量的なことはない。一定定性的な評価にはなると思う。

会長：社会福祉法ができた2003年から地域福祉計画が定められているが、「住民主体で策定すること」と書かれている。住民が「この地域で暮らせて幸せ」と思えるような計画、

市民がいかに満足しているかを評価のポイントにすることが重要であると思う。住民の力も借りつつ、専門的な方々にも協力いただきながら進めていく必要があると考える。

加藤委員：一番初めの時に、地域の課題を聞かれた時に「買い物に自由にいけない」「買い物に行きにくい」「タクシーを使うにも不便がある」という意見があり、改善されていないという状況があった。Meemo も加佐地域では使えなかった（高齢者スマホ使えなかった）。高齢者が満足できるかどうかという点で、交通の便のことも平行して考えてもらえるような支援の体制が整っていったらよいと思う。ちょっとここ良くなったなど実感できる風になったら良いと思う。

会長：交通難民の話にはあまり計画で触れてこなかったけど、大切な課題。地域福祉と買い物難民の問題は大きな関わりがあることなので、そういった具体的な意見はこれからも市や社協に伝えていってほしい。あとは活動計画に引き継ぐという形でお願いしたい。

桑原委員：買ったものを届けるためにドローンが飛んでいる市町村もあった。

会長：大学生にレポートを書かせると、中山間地域の生活の支援のためにドローンを活用するという意見は多く出る。小学校区・中学校区レベルで考えるときめの細かい地域福祉の実践をしようと思うと、みなさんの連携が重要である。法律は縦割りで、高齢者は介護保険、子どもは児童福祉、市役所もそれによって縦割りになっているが、2017年の社会福祉法の改正で、それぞれの分野に横ぐしを指すような計画にしようというのが地域福祉計画となった。重層の考え方は現場から出てきたことだし、重層の考え方を実現するために、各分野の計画に横ぐしを刺すという意味では、地域福祉計画が上位計画であるという考えはその通りである。

山内副会長：社協においては第4次地域福祉活動計画を策定しつつある。現在は理事全員の方に策定検討会として8月に実施する予定。重層の視点をもちながら策定をしている。4年計画ですが、市と最終年度が一緒になるように3年計画で策定する予定。またみなさんにお声掛けをさせていただきますので、よろしくをお願いします。

(2) その他

課長：ありがとうございました。各章において、重層的支援体制整備事業というのがキーワードになっていると思う。地域や民生委員さんの見守りがあり、障害・高齢・子ども・就労のどこにでも関わりがある事業になる。

5. 閉会